



目 次

母さんの忍耐力	優しき雄	初泊まり	逞しい雌	春の訪れ	初入り	朝のひと時	プロローグ
---------	------	------	------	------	-----	-------	-------

27	24	19	14	9	6	3	2
----	----	----	----	---	---	---	---

エピローグ	心の戦い	後悔先に立たず	それから	巣立ち	驚きの生育	自然界の不思議	
-------	------	---------	------	-----	-------	---------	--

62	59	54	51	44	36	31	
----	----	----	----	----	----	----	--



プロローグ

真っ暗だ！何も見えない！暗闇の中に冷たい杉の香が流れている。音も無い。時の流ればかりの空間だ。

微かに隙間が薄く見え出し、上部に丸い穴が見える。15cm四方ばかりの狭い空間だ。

隙間が徐々に明確になり出し、丸い穴も・・・

やがて、チュンチュンとスズメの鳴き声。隙間から穴から冷たい光が差し込んで来た。

杉香の冷たい気の流れは心地良いが寒くもある。やがて、光は明るさを増し、空間の中を照らし出した。ここは杉板に囲まれた空間、巣箱だ！巣箱の中だ！上部に3cmばかりの穴がひとつ開いている。

突然、ガチャガチャ！と大きな音と共に、空間は暗くなったと思う間もなく飛び込んで来た！この物語の主人公である。

## 朝のひと時

冷気の漂う薄暗い部屋の中でひとり紫煙を燻らせコーヒーを楽しんでいる。外では妻が庭の水やりをしている。7時前の長閑な時間、これは妻との日課となっている。

突然、ひと筋の紫煙がゆらりと崩れ

「お父さん！」

と水やりを止め、慌てて中に入って来た妻が

「綺麗な鳥が庭に来ている！」「なんの鳥やろ」

慌てて庭の見える部屋に行き、カーテン越しに庭に目をやった。何も居ない。何度となく目を凝らして朝日に輝く庭を探した。

「あつ！居た！」

シジュウカラだ！こんな街なかの小さな庭にシジュウカラが来ている驚きと嬉しさと胸がときめいた。

「母さん！シジュウカラや！シジュウカラが来ているんや！」

暫くしてシジュウカラは去った。妻は水やりに戻った。2月中旬の出来事である。胸のときめきは去年の12月にスズメでもと、4m足らずのもちの木に半信半疑で巣作りしないかと巣箱を掛けて居た為の喜びであった。まさかシジュウカラが庭に来るとは思ってもいなかった。

冷めたコーヒーを飲んでいると妻が庭仕事を終え戻って来て、

「まるで子供やなあ古希を過ぎたええおっさんが・・・」

「巣箱に入って巣作りを始めた訳でもないのに、もおう！ええ歳してえ」

私は

「シジュウカラ！シジュウカラやで！」

と言いつ返した。妻は呆れ顔でわたしを見つめて朝食の準備をし出した。テレビは7時のニュースも終わっていたが、わたしの胸はシジュウカラ営巣の望みの嬉しさにときめいていた。朝食もそこそこに終え庭を

見回したが、朝日が静まり返った庭の木々に輝きを与え、遠くでスズメが鳴いている。いつもの小さな庭に白梅と赤い藪椿が咲いているばかりである。胸の高鳴りも徐々に治まっていった。

このときめきの理由は、定年退職後1年目で前立腺癌の摘出手術をし、術後が思わしく無く約8年間抗癌治療を続けていた為か骨粗鬆症になり、背骨の一部が圧迫骨折して自由闊達に動けなくなった身体を持てあまして暮らしていた夏の盛りの或る日、

コンクリート電柱の金属製の碍子枕木

にスズメの営巣を見つけた。夏の陽が照りつける中、親鳥がセッセ セッセと餌を

運び、子育てをしている。陽を遮るものは何も無い！さぞ暑い！いや熱いだろうに！

3・40度いやそれ以上有るのではと思われる。昨今の住宅事情の関係で巣作りはこの様な場所しか無いのであろうか。4・5日経った夕刻2羽の雛が巣立った。よくぞこの熱さの中で子育てが出来たものだ



と、感心した。

よし、来年は営巢するかしないか分らないが、もちの木に巢箱を掛けてやろう。少しでも手助け出来ればと昨年12月に掛けて、妻にも気を付けて欲しいと言っていたのである。

### 初入り

翌朝いつもの様にコーヒーを飲み紫煙を燻らせていると、また妻が飛び込んで来て

「変わった鳥が来ているよ」と云った。

「シジュウカラ？」

「いや！違う見たい」と妻

慌てて窓に行き庭を見た。木斛もっこくに2羽の鳥がいる。「ん！コゲラだ！番つがい

の様だ！」

シジュウカラ以上に驚き、胸の高鳴りを抑え目を凝らした。木斛の枝を飛び回り暫くして去った。

「母さん、コゲラやコゲラ！キツツキの仲間や！こんな所にコゲラが来るなんて！」

抑えていた高鳴りが一気に大きな声となり妻を驚かせてしまった。妻は「ふーん」と

素っ気なく言う。と庭仕事に戻ったが、私の胸の高鳴りは治まらず巢作りの望みが膨らむばかりである。スズメかシジュウカラかコゲラか何れでも良い、巢作りが何時始まるのかと望みが益々膨らんで行った。

この日以後、再々観察カメラに目が行き、動きがあるとすぐ庭を見る様になった。昼前、シジュウカラが木斛に来て、もちの木との間を行き来して去った。次の朝、メジロが！ヒヨドリが！藪椿の赤い花に入れ替わり蜜を吸いに来た。1日置いて昼過ぎシジュウカラがもちの木に、巣箱の傍の枝にそして巣穴に止まる！も、すぐ木斛にと移り、

去った。その後にはスズメも数羽来て賑やかな庭となるが、巣箱には近づかない。2月21日夕刻には2羽のシジュウカラが来て、もちの木に止まりすぐ去った。なかなか巣箱の中には入らない。翌日の午前中にはチャツチャツと笹鳴きのウグイスが、そしてシロハラがもちの木の実を啄みに、この様に注意しているとメジロ・ウグイス・ヒヨドリ・シロハラ・ジョウビタキと以外と色んな鳥が庭に来ていた事を知った。それと厄介なカラスもだ。何が厄介かと言うと大きなペレット状の白い糞を落として行くのと集めた家庭ゴミを散らかして行くからである。

3月1日10時頃、観察カメラに何やら動くものが映った。カーテン越しにそつと庭を見回すと2羽のシジュウカラが木斛に止まり何かを啄んでいる。番だあ！胸のネクタイが細い雌と太い雄だあ！雌雄は互いに戯れるように巣箱の在るもちの木にと、飛び回っている！1羽が巣箱の前の枝に止まった！そして、巣穴に止まった！あつ！入った中に！巣箱の内蔵カメラにシジュウカラ！が映っている！じつーとし

て動かず頭だけ動かしキョロキョロと中を見回して出た！僅か10秒程の初入りだ！中に入った雌が去ると後を追って雄も去った。私には何分間と長く感じられた。これは有望だ！シジュウカラが営巣するのはと動悸が聞こえんばかりに胸が高鳴った。

### 春の訪れ

「母さん花が咲き出したなあ」

「そうやねえ手入れをしていけば、

時季が来ると綺麗に花は

咲いてくれるねえ」と妻

庭の手入れは妻がしていて私はなにもしていないのだが、庭の移ろいには敏感に気にする身勝手な性格なのである。道路に面した30㎡ばかりの小さな庭に4mのもちの木を始め、3m以下の木斛、一位、五葉の松、榎と1mの藪椿と白梅を植込んだ隙間に、赤に白縁の玉の



浦、黄色の水仙、淡い水色のサザンクロス、赤の木瓜と色とりどりの花が咲き、心を楽しませてくれている。すべて妻のお陰である。特に玉の浦は妻の郷里五島から持って来た椿で目を掛けている。本当は地植えしたいのだが場所が無く鉢植えで我慢をしている。その花にもヒヨドリ・メジロがやって来て、折角苦労して咲かせた花を落としてしまふ為、妻にとればヒヨドリ・メジロは厄介な鳥なのであるが、私の鳥好きに気を使い文句ひとつ言わないで、植木・花の手入れをしてくれている。その咲き出した花の上をシジュウカラが毎日の様に午前午



後と時間を変え、番で来るようになった。そして木斛ともちの木の枝間を戯れるように、また時々巣箱を覗きこむ様になった。そして、雄が縄張りを主張するピーツピーツピーツと盛んに啼くようになった。

或る日、珍しくスズメ数羽が賑やかに木斛の枝間を啼き乍飛び廻っている。その内の1羽がもちの木の巣箱の近くに止まった。そして、

木斛の枝に戻りのんびりと羽繕いをしていたその時！スズメに向かい1羽が突進してきた！シジュウカラだ！

体当たりをした！驚いたスズメが跳び上がった。更に追い打ちを掛けたシジュウカラ！

堪らずスズメは飛び去った。

追い払った枝にシジュウカラは勝ち誇ったように止まり

周囲を見回している。

縄張りを確保した瞬間であった。

「母さん！シジュウカラって凄いわ！

ひと回り大きなスズメに体当たりして

自分の縄張りを守ってるわ！」

「ほら！見てみいー」

一部始終撮ったビデオを妻に

見せると妻は



「うわっ！凄い！小さくてもシジュウカラって強いんやなあ」

「お父さんもいざ！と言う時

ガンバッテや。・・・無理かな、

今のお父さんには」

「そんな事ないでえ」と返すと

「腰が痛い、何処が痛いの、

しんどい、だのと言っている

今のお父さんには期待出来ないわ」

と妻

返す言葉もなく、

黙ったまま時間が流れた。

今日もやはり番で来ている。

1羽がもちの木の下枝に

もう1羽は巣箱の近くに、そして1羽が巣穴に向かった。

同時にもう1羽も巣穴に向かった！オオーッと2羽が巣穴で衝突！



1羽が枝に戻り1羽が中に入った。入ったのは雌だ。雄が先を譲ったのだ。すぐに雌も外に出た。入れ替わって雄が巣穴に止まりコッココツと何度となく巣穴を突いているが、中には入らず巣箱の周りを飛び回って木斛に移り、すぐに戻って巣穴に止まると中に入った。巣箱の中のあちこちと突つき動き廻っている。その時ガチャツと音がすると中は暗くなった！雌が入って来て、嘴と嘴とをキスをするかの如く合わせ一瞬2羽の動きが止まった。そして、先にいた雄が外に出た。

残った雌は、まるでブルドーザーのように前屈みなり翼をバタつかせ隅から隅へと進む奇妙な行動を何度となく取り、やがて満足したかの様に周りを眺めると外に出て、外に居た雄と一緒に飛び去った。このブルドーザーの様な行為は何の為の行動か訳が解らなかったが後日になって理解する事が出来た。この様な行動を幾日か繰り返していた或る日、いつもと同じ様に1羽が先に巣箱に入り、後からもう1羽が中に入った。先にいた1羽が屈むように背を低くしたかと思うと、1羽がその背の上に乗った。交尾だ！数秒間だ！すぐに後から入った雄

が出て行き残った雌は暫く周りを見まわして外に出た。先に出ていた雄は外で待つており、2羽一緒に飛び去った。

「母さんシジュウカラが巣作りするでえ！」

「大きな声でもおう・・・ホント良かったね」と妻がさらりと返した。間違いないこのシジュウカラの番はこの巣箱に営巣するだろうとの確信を得る嬉しさに胸のときめきが高鳴った。

### 逞しい雌

ガタツガタツガラガララーッ

「母さんもう少し静かに開けて、シジュウカラが巣箱に来ているんや」  
雨戸を開けている妻に言った。何時巣作りを放棄してもおかしく無い大事な時期、

「ごめん、ごめん 忘れていた」

と言って妻は他の戸を静かに開けてくれ、巣箱に止まっていたシジュ

ウカラは飛び去らなかつた。巣箱までの距離は3mばかりである。

「もう馴れて逃げへんわ」

「良かった！けれど、これくらいで逃げるようだったら氣を使って何も出来ないよ」と妻

確かに今では妻が庭仕事していてもシジュウカラは庭に居るようになり、そして戯れるように2羽が前になり、後ろになりと庭を飛び回る時間が多くなっていた。

3月12日11時頃、何かを啜えて木斛に止まった。苔を啜えている！

もちの木に移った！1羽だけだ。

そして、巣穴に止まった！中に入った！入ってすぐ撒くように口から離れた。

巣箱の床に散らばった苔を確認するかの如くキョロキョロと周りを見



回して例の奇妙な行動、ブルドーザーが始まった。1回、2回、3回と、動きが止まった。こんどは巣箱の中を右上に左上と点検し、観察カメラをも突つつき外に出て、すぐに飛び去った。巣作りが始まったのだ！

巣材を凶鑑で調べてみると這苔のようだ。何処から持って来たのか気になるところだが、街なかでは調べる事も出来ない。数十分ばかり経っただろうか、又苔を啜えて巣箱の中に入った。やはり同じように撒きブルドーザーを2回して去った。本格的な巣作りに入った様だ。苔を運び込むのは雌雄両方かそれとも雌だけか、目を凝らして観察をするが明確に判断が出来ない。どうも雌だけのように思われる。

「巣作りはどうも、雌だけがするんやなあ」と呟くと

「なにが言いたいのや、お父さんに家事を手伝ってと言った事ある？  
ないやろ？」と傍にいた妻。

「な・なにも・・・そんなつもりで言ったんやないでえ」「なにもしな  
いからいつも感謝しているでえ」

妻が「ほんど？そんなふうには見え無いけど？」  
に、何もしない？出来ないでいる私の胸をチクリとひと差し、針を刺された気分になった。

そうして3日が過ぎた。4日目、苔を啜え巣箱に入ったと同時にスズメが続いて巣穴に止まった！驚いた中のシジュウカラ！苔を啜えたまま微動だにせず固まってしまっている！外のスズメは巣箱の屋根に、そして周りを転々とし、また巣穴に止まり去った。その間、中のシジュウカラは固まったままだ！スズメが去り、暫くすると気が付いた様に啜っていた苔を口から離し、そおと恐る恐る頭を動かした。もう大丈夫？かな？やつと身体を動かし隙間から外を覗いている。静かになりスズメが居なくなつたのを確認し、ブルドーザーもせずに巣穴から外を見て飛び去つた。よほど怖かつたようだ。巣箱に戻つて来るか？放棄しないか心配だ。1時間ばかり経つて、戻つて来た！苔も啜えている！良かった！オットー！巣穴に止まるが中に入れない！苔の啜え過ぎだ！近くの枝に戻る。再度、巣穴に止まるがやはり入れない。2

度3度繰り返すが中に入れない。必死に入ろうとするが入れない！

「オーイツ！欲張り過ぎだあ！」思わず呼掛け顔が綻んだ。

4度目、巣穴に跳びつき入ろうと頭を突っ込んだ瞬間！苔が半分ばかり口から落ちた！やっと中に入り苔を撒き、ブルドーザーを始めた。良かった！巣の放棄をしなかった！

ひと安心だ！巢作りを始めて10日ほど

経つと苔はブルドーザーで固められ

6cmばかりの厚さに敷きつめられていた。

ある日、啜えて運び込み出したのは、

白い獣毛だ！苔の上に獣毛が次々と

運び込まれて行く！そして、巣箱の

ほぼ中央に径10cm足らずの産座が

仕上がって行った。

シジュウカラの雌の逞しさに妻の嫁入り時を思い出した。本州の西の果て東支那海に浮かぶ五島列島の周囲10kmばかりの離れ小島の小



さな入江を1隻の渡海船が蛍の光を鳴らし、朝日に輝く海に五色のテープを流しながら周回している。やがて、渡海船は一条の航跡を光る海に残し、小島から離れ出した。その船に、ひとり目頭を押さえ手を振る女性がいた。私の妻である。棧橋には手を振る両親と弟夫婦、車1台しか無い小島から親・弟と友人と別れ、ひとり見知らぬ大都会の何も解らぬ大阪の家庭に、私ひとりを頼って向かう妻のそして女性の逞しさが脳裏に浮かんだ。

### 初泊まり

「母さん！卵や！卵！産んだでえ！ほら！ほら見てみい！」

「今、親の下になって見えないわ！」「じーっと見ときや」

と眠気まなこのぼんやり顔の妻に興奮しながらモニターを指差した時、親が身体を動かした！瞬間！

「ほら！ほら見えたやろ！」

妻が「ほんとかや！産んでいる！卵やなあ！」「卵に間違いないわ！」  
3月24日5時50分を時計が指していた。今朝はなんとなくいつも  
に無く5時半と早く監視モニターの電源を入れて見れば既にシジュー  
カラが中に入り蹲っていたので観察をしていたのである。

「やった！やったでえ！」

と小躍りし、初めて身近に見る野鳥の産卵に立ち会えた喜びに思わず  
右こぶしを突き上げていた。

「ほんまに子供そのものや、わたしの出産の時はそんなんと違うかつ  
たで」と呆れ顔で笑いながら。バジヤマ姿の妻が言った。

雨戸もまだ開けていない外では雄がピーッピーッピーッと盛ん  
に啼いている。産卵している雌の事が心配なのである。暫くすると、  
雄の鳴き声に反応するように雌はピーピーピーと啼きながら嘴で巢材  
の白い獣毛を掻き寄せ立ち上がったと思うと、巢穴に跳びついた。そ  
して、外を見るや否や雄と一緒に飛び去った。産座には白い獣毛を透  
かしてひとつの卵が白く輝いていた。

2時間以上経つが親は戻らず白い卵が輝いている。このままで卵を放置していて大丈夫なのだろうか心配だ。8時55分やっと2羽で戻ってきたが、巣穴に止まった雌の様子がおかしい！しんどそうにして巣穴に止まったまま中に入らない！お腹が大きいぞ！と思つていると中に入った。すぐに蹲りじつとして動かない。外の雄はピイピイピイと啼きながら枝から枝へと何も出来ずにオロオロと巣箱の周りを跳びまわり落ち着かない。

「どっかの誰かさんみたい」と妻。何も言えず黙つて聞いていた。

雌は初産卵して余ほど疲れたのか殆ど動かない。5分以上経つてから、やつとゴソゴソと動き出した。元気が出てきたのかな？良かった！尾羽を垂直に立て、全身に力を入れていると思えば、尾羽を水平にし、小刻みに全身を震わせている。もしかすると、2個目の産卵か？今度は頭を身体の下に突っ込み尾羽を左右に振っている。2度3度と繰り返した後、動かなくなった。そして外の雄の啼き声に反応するかの如く雌はピイと一声啼くと雄は飛び去った。雌はじいーつと眠るよう

にして動かない。随分と時間が経った時、ピイピイとの啼き声と同時にガチャガチャ！の音と共に巣箱の中が暗くなった！と同時に雄が中に入って来て、蹲った雌に何かを口渡しして出て行った。蜘蛛だ！蜘蛛を口渡ししたので！初めて観る餌渡しだ！雄が疲れている雌に餌を運んで来たのである。やがて、雌は嘴で獣毛を身体の下に搔き寄せだし起き上がった。瞬間！身体の横に2個の卵の一部が見えた！2個目だ！

「母さん2個目や！卵！卵2個目を産んだでえ！」  
妻が

「2個目？朝産んだばかりなのに、もう1個産んだの？ほんと？」と言いながらモニターを見たが、画面には雌の身体が大きく映っているだけだった。

「もう親の下になって見えなくなっただけだ」

「確かに卵は2個になったよ」と返した。

暫くして雌は外に出て飛び去った。巣箱の中は白い獣毛が敷き詰めら

れていて卵は観えない。時計は10時前を指していた。妻に餌渡しの手を言うと

「優しいのねえシジュウカラの雄って、お父さんみたい」

「厭味？」と返すと

「いいえ！ほんとに思ったこと言っただけ！厭味に聞こえた？」と笑いながら妻。

「・・・」またも返す言葉が無かった。

この日雌は、1時間ばかりの間隔で巢材の獣毛を運び込み、雄はその度に近くの枝で見張り続け、2羽一緒に去る1日となった。陽は西に傾きやがて、夕張りが巢箱をも覆い出した。18時前2羽が来て、何も啜えず雌は巢箱に入り蹲った。雄は外でピーッピーッピーッとして啼いている。やがて雄は見届けたように去った。中の雌は暫くの間息も荒く落ち着かない様子だ。日は暮れ黄色い半月が出て巢穴からは外灯の明かりが丸く壁に射しだすと、頭を翼の中に入れ眠り出したようだ、がまたすぐ頭を上げキョロキョロしている。日はすっかり暮

れた。観念したかのように頭を翼の中に入れ眠り出した。雌の身体から早い動悸が伝わり恐ろしさと不安がこちらにも伝わる。こうして初泊まりの長い夜が始まった。半月も白くなり天頂近くの23時に不可視赤外線カメラで様子を観た。頭を翼に突っ込み丸くなって眠っていた。動悸も激しくなく落ち着いて眠っている。良かった！

「産卵すれば巢で眠るんだ！お疲れ！ご苦労さん！おやすみ・・・」

## 優しき雄

早朝の冷気にコーヒーの香りとひとすじの紫煙が立ち昇る部屋の窓ガラスがうつすらと白み始め、長かった夜の終わりを告げ出した5時前、モニターの電源を入れた。丸くなって眠っている！穏やかだ！朝の光は早い！地球の自転の速さを体で感じ得るこの時間、随分と明るさを増し墨絵の世界に徐々に色彩が加えられて行く！ピーピーとピーッピーと雄が啼き出した。雌を迎えに来たのだ！ピーピーと雌が

反応し眠りから覚めた！

「お早うさん！」

身体を動かさし、翼を半広げにして身体を伸ばした。そして立ち上がり巣穴に跳び着くと同時に外に出、雌雄で飛び去った。後には白い卵が3個！輝いている。夜の間には3個目を産卵していたのだ。しかし、この日も巣材を運び込むが抱卵する事はなく獣毛を卵に載せてすぐに出出し、巣箱に留まる時間は少ない。外気温は最低15度前後、最高25度前後と思われるが、卵に影響が無いのか？心配だ！

今日も夕刻には番で帰巢し、雌が泊まり込み雄は去った。泊まり込んだ雌は昨日の様な緊張はなく落ち着ている。2日目も暮れて産座に蹲り丸くなって眠った。

毎朝4時半には起きて観察をしていると、

「こんな朝、早よう起きて何しているんや？」と目を擦りながら起きて来た妻

「うーん、卵の産まれるとこを覗たいんや」と紫煙を揺らした。

「因果な性分やな、根性あるわ！」と言って妻は床に戻った。

その根性？のお陰で1日1個の産卵を行い、初産卵から9日目の4月1日の朝には卵は10個となるまでに、いろいろの事が観られた。産卵する時間帯は泊まり込んでいる間が多い様だが昼間も確認出来ている。昼間の産卵には、必ず雄が近くで見守り餌渡しをする。優しい雄の愛情が感じられる場面が何度となく観られた。雌が産卵に要する時間は短くて10分前後から長くて1時間前後掛かっていた。

そして、この日の朝から雌の行動に変化が出てきた。産座に蹲る時間が多くなり外出する時間が極端に少なくなった。雄の餌渡し回数も多くなり抱卵期に入った模様である。

街の小径は薄いピンク色に染まり花見客が漫ろ歩き、色々の花が咲き乱れ春さなかの時季となっていた。

この季節になると母が100歳を迎え、市役所からお祝いに職員の家来宅予定を楽しみにしていた母が体調を崩し救急車で入院する途中、

サイレンを鳴らしながらの道路を車窓みちに流れる桜に、笑顔も少なくなつた軽度の認知症の母に指差し、ニコツと笑顔が浮かんだ母と一緒に見つつ病院に向かった。母の入院は珍しくなくこの頃には何度となく入院を繰り返していたが、終いには姉兄弟が近くには居たが、誰も来なくなり妻と2人だけで病院に寝泊まりし介護した。そして国から頂いた祝いの銀杯を病室で説明しながら見せても顔は向けるが笑顔もない母を介護する日々を黙々と送っていた事が桜と共に浮かび上がる。

### 母さんの忍耐力

日は過ぎ庭の木々の葉は光りシトシトと雨が降っている。時々雨足が早くなりモニターにもコトコトと雨音が響くうす暗い巣箱の中は10個の卵が白く輝いている。雨音が一段と激しくなつた。その時、モニターが暗くなつたかと思うと雌が飛び込んで来た。全身雨にずぶ濡

れだ！慌てて帰って来たのか息が荒い！すぐそのまま身体を揺らしながら卵の上に蹲った。間をおいて何度か身体を揺すりながら右に左にと身体を回転させると落ち着いたのか、動かなくなり頭を翼の中に入れて丸くなって眠った。10分ばかり経っただろうか、ムクツ！と頭を上げ！尾羽を垂直に立て！身体を左に90度回転させたと思うと、頭を身体の下に突っ込みながら小刻みに振っている。卵を均一に温める為の攪拌動作か？などと想像していると、頭を戻し尾羽を立て身体を揺すって落ち着き、じつと前の壁を見据えている。シジュウカラ雌の凄さに感心し妻に

「シジュウカラの雌の忍耐力って凄いなあ」  
傍で見ていた妻は

「シジュウカラだけで無いよ！人間も、女の忍耐力は男なんかには負けんよ」とカラカラと笑いながら言った。

そこには10年以上寝たきりの母の介護を、厳しかった母と3人の小姑の身勝手な憶測による嫌がらせと、這い蹲っての子育てを遣り抜

き、102才の母を自宅で看取った妻の自負が感じられた。

突然、モニターがガチャガチャ！と音が鳴った。雄だ！身体は雨で濡れ、息荒く入って来た。大きな緑虫を啜あおむしえている！雌と顔を見合わせ緑虫を渡した。と同時に雄は出て行った。雌は四苦八苦しながら呑み込んだ。

「ほら、母さん見た？雄も雨の中頑張っているでえ！」

「当然やろ、夫婦で協力し合うのは！だけど、シジュウカラって人間も一緒やなんやなあ！感心するわ！お父さんも病を患いながらも、よう頑張って来たもんなあ」と妻

体調を崩して妻には負担を掛けばなっしで来たこの25年ばかりが、ふと頭を過った。

緑虫を呑み込むと雌は身体を小刻みに揺すり気に入った位置になったのか、前を向きじつとして動かなくなつた。微動だにしない。眠ってはいない！目を開け動かない！10分ばかり経つただろうか頭を身体の下に突っ込み卵の攪拌動作をし出した。

尾羽を立て左右に身体を  
揺すりながら回す格好は、  
雌には悪いが滑稽で

こよなく可愛く

何度見ても飽きない。

攪拌動作を終わるとまた、

じつと前を向き動かずに卵を温めに入る。

雨も上がった翌朝、家の前の道路に♪ゆうやけ こやけえの 赤と  
んぼ・・・♪の大きなメロディーと共に大型のゴミ収集車が巣箱の数  
m先に止まった。キィキィーガタガタゴォー、ドンドンガタガタゴォ  
ーと大きな音と共にゴミ袋が収集車に投げ込まれて行く、巣箱内の雌  
は何事かとばかり首を傾げ、耳を澄ましながら蹲って抱卵を続けてい  
る。ガタガタウーンバタンブウー♪ゆうやけ こやけえの 赤とん  
ぼ・・・♪とメロディーを鳴らしながら遠去って行った。雌は耳を澄  
ましながらじつと前を向いたまま抱卵している。メロディーが聞こえ



なくなると身体を小刻みに左右に揺すり態勢が整うと前を見据えて動かなくなつた。少々の事では動じない肝っ玉母さんが観られたゴミ収集日であつた。

1時間ばかりに1回は雌も採餌でもしに行くのだらうか外出する。そして1日に何回かは雄が餌渡しにやってくる。やがて夕刻になると雄はその日の別れに来て、翌朝夜明けと共に迎え来て、抱卵の1日が始まる。

### 自然界の不思議

4月14日10時前、巣箱の近くの枝にカラスが止まつた！  
そして、巣箱の屋根に移つた！巣穴を覗いている！ガチャガチャ！と中では大きな音に蹲っていた雌が瞬時に立ちあがり低い姿勢で固まつた！目は緊張し光っている！ガチャガチャ！とカラスはなかなか去らない！巣箱が揺れる！

やっと巣箱から離れ近くの枝に移ったが去らない。

暫くして大きく枝は揺れカラスが飛び去った。思わず

ホーッと、安堵のため息が出た。

雌は頭を伸ばし、隙間から外を

覗いている。やがて安心したのか蹲り

耳を澄ますように頭をキョロキョロさせ

抱卵の姿勢を取った。

暫くするとスツクと立ち上がり、巣穴に跳び着き、外を見回し異常が無いと確信するや外に出て飛び去った。巣箱には10個の卵が輝いている。

「良かった！何事もなくて良かった」と思わず呟いた。その瞬間、

「あれ！」動いた？「動く筈が無い」と思いながらモニターから目を逸らした。が、また動いた様に感じモニターに目を凝らした。すると、



やっぱり動いている！間を置いて、また動いた！

「卵が動いている！母さん見てみい！」「母さん早く来て見い！」何がどうしたのとばかり、ゆったりとして妻がモニターを覗き込み「卵だげやないの」

「まあまあ見ときや」「卵が1つだけ動くで」「この卵や」とモニターを指差した時、

「ほら！ほら！見た？」「動いたやろ！」

「あつ！ほんと！動いた」「あつ！ヒビが！卵にヒビが入った！」と妻、卵の真ん中を横断するひと筋の線が走った。

「孵化や！孵化が始まったんや」

卵の変化は10秒ばかりのインターバルを置き現れた。間をおいて「割れた！卵が割れた！

白い卵の割れ目に赤みの身体が見えた」

が、すぐ動きが止まった。間を置きまた

動き出した。割れ目は大きくなり赤みの身体は徐々に大きくなって来



た。身体半身程度見えた時、足で卵の殻を懸命に押す雛！白い卵が大きく割れ、手(翼)も見える様になった。

「ガンバレ！もう一息！」気付かぬうちに手に力が入っていた。

ガチャガチャ！と音と共に巣箱内は暗くなり雌が帰って来た。雌は驚いたように暫くは茫然と半身出した雛を見つめている。思い出したかの様に雛の身体に付いている卵の殻を取り、オツ！と殻を食べ出した！パリパリと音が聞こえんばかりに殻を食べている。残りの半分をも食べ、雛は全身が現れた。赤い頭に膜を覆った黒い大きな目が目立つ1cmばかりの小さな身体だ。

やがて、雌は思い出したかの様に身体を左右に揺すりながら蹲り保温に入った。5分経っただろうか、親は身体を浮かし頭を身体の下に突っ込みゴソゴソしている。頭を上げた嘴には、卵の殻を啣えている。2羽目の孵化だ！やはり殻は食べてしまった。続いて3羽目が孵化した直後、雄が雌の餌渡しに中に入って来た。雌は餌を受け取ると立ち上がり、「産まれたよ」と言わんばかりに雛を雄に見せた。驚いたよう

に雄は雛を見て、「頑張ったね」と

言わんばかりに雌と顔を合わせ、

しばしの時を置いて、「餌採って来るね」

と言うが如く、ピイと啼き外に出て行き

暫くすると餌を啜え戻って来て、

雌と共に餌を引つ張り合い餌を小さくして

雛の給餌を繰り返す。

午前中に5羽が孵化し、午後には3羽、

翌早朝には10羽、全羽孵化していた。

この不思議な事象！初産卵の2卵を除き、毎日1日1卵を産卵し9日間で10卵産卵したにも拘わらず、孵化が抱卵開始後14日目の20時間以内に全卵一斉孵化すると言う不思議だ。何故一斉に孵化出来るのか孵化に謎が芽生えた出来事であるが、これも後日、理由が解るが不思議だ。



## 驚きの生育

全卵孵化した日の気温は最低7℃最高20℃前後であろうか、午前中雌は雛を温め、餌は雄が運び込み雌に餌渡して互いの嘴で餌を引っ張り合つて小さくして雛に与える。午後は雌も外出し餌を運び込む。雛の糞はその時のタイミングで雌雄とも食べて産座を汚さない。驚きと感心することしきりである。因みに、鳥の雛と言えば可愛いひよこを連想するが、シジュウカラの雛はお世辞にも可愛くなく、異常に大きな頭と膜の張った黒くて大きな目、1cmばかりの全身が赤い肉の塊、グロテスクそのもので決して可愛いとは思わない姿で、動きは弱々しく頭も持ち上げるのも精一杯の感じである。

孵化して3日目にもなるとうつすらと赤い身体に黒い産毛らしきものが見え出し、目に見えて身体が大きくなっているのが判る。餌渡しは外でも行われ、餌探しに出た雌が帰って来た雄からもちの木の枝で餌を受け取り雌が中に戻って給餌を行い、雄は餌探しに飛び去る。こ

の頃は雛に給餌するのは雌が主に行っている。

5日目、身体は3倍以上にも大きくなり全身も黒い産毛に覆われ動きも遅しくなり、口を開け餌を要求する動作が活発になって来た。親は雌雄とも給餌と糞の処理に多忙となった。糞は親が食べていたが大きくなり巣箱から持ち出し始めている。

その糞の処理が滑稽だ。

餌を貰った雛は、お尻を上につき出してペレット状の白い糞を出す。

親はその糞を嘴で咥え、引っ張り出す！

この雛の姿が誠に滑稽だ！

糞を咥えた親は外に運び出す。

決して巣箱の中に留めない！

それも、必ず餌を貰った雛だけが

糞を出す！他の雛たちはそっぽを

向いて吾関知せずの体である。雌は雛を温めながらの給餌、雄の給餌



は食欲旺盛になった雛への給餌に懸命だ。

雛を温めていた雌が採餌の為に立ち上がり巣穴に跳び着いた！

そこに外から雄が戻ってきた！オット！出合い頭に衝突！雌は産座に落ち茫然！雄は外で餌を啜えたまま落ち、もちの木の枝で茫然！2羽とも痛かっただろうに！暫くして、落ち着いた雌が外に出て、雄が中に入り給餌をして糞を啜えて飛び去った。

この時から雌雄とも巣箱に入る前は枝に止まりチイチイと啼き、中からも反応する様にチイチイと啼き連携をとるようになって衝突するような事は観られなくなった。シジュウカラも日常生活のなかで学習している事が判った事象であった。

4月24日孵化から10日目、昨夜は初めて親が泊まらなくなったので今朝は早く起き観察しようと思っていたが、朝起きると頭痛がし気分が悪いので体温計を挟んだ。7度6分、どうも風邪を引いたらしい。少し寒気がするが、パジャマ姿で観察カメラの電源を入れていると、

「お父さん！どうしたん！しんどそうな顔して」と妻の問いかけに  
「どうも、風邪を引いた見たい」

「熱有るの？」と妻

「うん、少しな」

「なんぼ？」と妻

「7度6分や」

「寝てた方がいいのと違う、歳が歳やから抉れたら肺炎になるで」と妻

「シジュウカラが気になって」

「シジュウカラと自分の身体、どっちが大事なん！」と妻

「うん？シジュウカラ」

「なに！アホ云うてんの・・・ほんまに！今日は病院休みやで！ゆっくり寝とき」と妻

「母さん！見てみい！目が！目が開いてるで！うつすらと！」

「あつ！ほんま！可愛い！」と妻

身体も孵化時より5倍以上も大きくなり小さな羽根も生え出し、尾羽も短く伸び、実に可愛くなつて来た雛なのである。

「分ったから、早よ寝！無理して観察してるから風邪を引いたんや！そんな事しても何もならんやろ！早よ寝んとアカンで・・・ほんまに」と妻

「解った、暫く様子を見てから寝るがな」と言い乍ビデオ録画の操作をしていると、

「何しているん！早く寝とかんと」と妻

「解った、わかった！10日目の記録しとかんと」

「もう！抉れても知らんで！ほんまに・・・」と妻

ここ最近、朝4時半からの観察が続いていたのが、疲れとなり風邪を引いたのか体力の無い情けない身体となつてしまつていた。

孵化後10日を過ぎると雛たちは日に日に大きくなり、小さな翼を広げブルブルと震わせ飛ぶ練習を早々と始め出し、目もパッチリと開いている。

妻に怒られながらも観察を続けるうちに風邪は大ごとにならずに数日で体調は回復した。4月29日、15日目、雛は身体も孵化時の10倍以上に大きくなり食欲も旺盛となっている。

親の給餌は1日に140回以上となり、平均間隔は5分ばかりに1回行っており、正にピストン給餌となる。

給餌のパターンは餌を貰った雛が食べる(鵜呑み)とお尻をピンと上げペレット状の袋糞を出し、親はすぐにそれを啜えて運び出す。雛はゴソゴソと産座の中に潜り込む。

忙しい親たちの給餌行動は、ラベルのボレロの音楽が重なり、雛たちのこの上なく可愛い仕草で、自然と笑ってしまう。



15日目を過ぎると雛は翼をいっぱいに広げブルルン　ブルルンと、今にも飛び上がらんばかりに羽ばたきを何回も練習し出した。このシジュウカラたちの頑張りとは雛の成長を見て私たちの子育てを思い出した。

ある朝、目を覚ますと妻が四つ這いになってじつとしている。「どうしたん！しんどいん？」重い身体を起こして言った。

「大丈夫、しばらくしたら治る」と妻

この頃、私はうつ病で体調を崩し会社務めも間々ならず、突発の休暇を取る事が再々あり、妻に寝た切りの母の介護と子育てを任せ切りにしていた為、妻の体調も決して良く無い状態であった。

「会社休もうか？」私自身も気分が思わしく無かったのと妻の事が心配であったので、

「大丈夫や、しばらくしたら動ける出勤して！すぐ・・・ご飯の用意するから」と妻

「だけど、こんな状態で出勤しても心配やし、しんどいから休むわ！」

「大丈夫や！お父さんがしんどいんやったら休んだら良いけれど、私は大丈夫！ご飯の用意するわ」と子供の顔を見つつ起き上がった妻、無理やり私が起こした形となり、ふらつきながら炊事をやり出した。妻の頑張りに私も出勤せねばと床を上げた。夜、仕事を終え帰宅すると、鉢植えのトラノオが置いてあった。

「精神的に良いとの事なので少し高かったけど買って来た」と妻朝のことは、忘れたかの様にいつもの明るい妻になっていた。

話を戻すが、その夜、付き合って5年越しの息子の彼女が来たので、「おもしろいものを見せて上げようか」と言って観察カメラの電源を入れた。怪訝けげんそうな顔をしながらモニターを見て

「わあーっ！かわいい！初めてです。こんな画を見たのは」と彼女

「かわいいでしょ！現在の生の映像です。シジュウカラの雛です。」

「シジュウカラ？の雛！巣を作ったんですか？」と彼女

「3月1日から巣を作り出し、雛を育てているんです。もう3日もす

れば巢立ちますよ」

息子は関心を示さず何も言わなかった。私とふたりだけの会話となった為、会話はそれ以上進まなかった。

息子は、自然には手を加える事に以前から反対していたので、私が巣箱を掛ける事そのものに疑義を持っていた。それ故の態度を取っていたのである。

### 巢立ち

5月1日、親の給餌の合間に大きくなった雛たちは、狭くなった巣箱内で翼を精一杯広げバタバタと飛び廻り出した。そして、巣穴に止まり初めて見る外景をキョロキョロと旺盛な好奇心で見回す事は何度も繰り返し、スワツ！巢立ち？と今にも外に飛び出さんばかりだ！今までに調べ得た情報からは1日早い？ヤキモキしながら1日が過ぎ陽は暮れて行った。

5月2日孵化18日目、予定では今日巣立ちする筈だ。早朝から巣箱内が落ち着かない。バタバタバタと飛び廻り、巣穴に跳び付いたり、何時巣立ちが始まってもおかしく無い状況だ。

「母さん！恐らく今日の昼前後に雛が巣立つで」

「あーそう、みんな元気に巣立てば良いね」と妻

相変わらず素っ気ない妻の返事に熱くなつた胸の昂りが治まりやがて紫煙が消え、コーヒーも冷めた7時前、雌が給餌に巣箱に入った。その後を追う様に、もう1羽が巣箱の前の枝に止まった。ん？スズメだ！少し間を置いて、なんと巣穴に跳び着いた！驚いた中の雌！バタツ・バタツ・バタツと翼をバタつかせ威嚇動作を始めた！スズメはすぐ去ったが、2回、3回と雌が続けた動作に1羽の雛が驚き、なんと！外に飛び出した！雌は気付かないのか威嚇動作を続けた為、もう1羽も外に飛び出した！やっとなつと気付いた雌は、後を追って外に飛び出した！2羽の雛と雌を探すが庭には見当たらない！中の雛たちは身体を屈めじつと身を潜めている。30分程度経って親が給餌に来て、雛たちも

落ち着いた様だ。飛出した2羽が何処に行つてどうしているのか気掛かりだ。親はいつもと変わらず給餌を続け、この出来事の為か、巣立ちの気配もなく予想が外れ1日が過ぎて行つた。

翌日は朝から雨だ。雨に打たれて青紫のアイリスが数輪、光っている。雨だが空は明るい。巣穴から雛が不思議そうに庭の雨景色に目を輝かせキョロキョロと見ている。雨の中親は給餌に多忙だ！午後には雨が上がったが巣立つ様子がなく、1日が暮れた。

「巣立ちには天気の場合も考えているんかなあ・・・賢いんやなあシジュウカラは」と妻

5月4日孵化20日目、昨日の雨空と打つて変わり、陽が眩しく爽やかな朝となった。巣箱の中は落ち着きがなく、バタバタバタと飛び廻る雛、巣穴に跳び付き外を伺う雛とそして餌を貰う雛と・・・今日こそはいよいよ巣立つのではと胸が高鳴るが、なかなかその動きが観られない。そうこうするうちに昼は過ぎてしまった。

14時前、姿は見えないが雄が近くでピーッピーッピーッ

啼き出した。巣箱の中は羽ばたきをする雛、羽繕いをする雛、壁に

跳び付く雛と益々騒がしくなった。1羽が巢穴に、跳び付いた！頭を突き出し目を輝かせ外をキョロキョロ突然、もう1羽が巢穴に跳び付いた！と同時に先の1羽が押し出されてしまった！思わぬ3羽目の巢立ちだ！押し出した雛は外をキョロキョロ眺めてから中に凹んでしまった。

すぐ代わりの1羽が顔を出しが、これもまた中に凹んでしまった。

しき

ピーツピーツピーツと頻りに親は

啼いている。暫くして1羽が頭を出し、

半身を出した。目は好奇心と不安でキラキラ輝いている。よし！4羽



目の巢立ちと思いきや、後ずさりしてまたまた中に！初めて見る外は余ほど恐ろしいのだろう。親は懸命に呼んでるが雛たちは飛び出さない。と思った時、1羽が頭を出し、飛んだ！4羽目だ！すぐ後から1羽が顔を出しキョロキョロ、半身出したかと思うと飛んだ！5羽目だ！

続いて1羽が顔を出したが凹んでしまった。

巣箱の中は羽ばたく雛、壁に跳び付く雛、羽繕いする雛、啼く雛と大混乱だ。

少し間を置いて顔を出した1羽が、キョロキョロしながら

半身出したかと思うと同時に

飛出した！6羽目だ！すぐ後から

1羽が顔をだして外を見ているが動きが無い。中に凹んでしまった。

このような状態が何回か続き時が少し流れた。気が付けば少し風が強く、もちの木葉が揺れ陽の光にきらきらと輝いている。ピーッ



ピーッピーッとして雄親、先に巣立った雛であろう。ピーピーと賑やかだ。

5分以上経ったであろうか、雛は顔を出すが飛び出さない雛に痺れを切らしたのか雌親が巣穴に止まり巣立ちを促し離れた。1羽が顔を出し頭を突きだしたが、後ずさりしたと思っただが意を決したのかすぐ半身を乗り出し、飛んだ！7羽目だ！すぐ1羽が頭を出しキョロキョロと目を輝かせ眺めて、飛んだ！8羽目だ！

オッ！何？メジロが近く

の枝に！好奇の目で巣箱を見ている中、1羽が頭を出した。

突然ゴォーと大きな音と共に車が

通過！驚いた雛！頭を引っ込めるが

、すぐ半身を出し飛んだ！9羽目だ！

メジロが巣穴のすぐ傍の枝に止まり、

まるで「ガンバレ！」とエールを



送るが如く巣穴を見ている。

最後の1羽が半身を出している。

ピーッピーッピーッ

雄親、ピーピーと外に出た

雛の鳴き声に励まされる様に

目を輝かせ足を巣穴に掛け！

飛んだ！10羽目が飛んだ！

全羽が巣立った！巣箱の中は今までの喧騒が嘘のように静まり、動きの無い敷き詰められた苔だけが鈍く光っている。時計は14時半を指していた。

約30分間の出来事であった。やがて、雄のそして雛の鳴き声は街なかに遠去り、雄の鳴き声が遠く微かに聞こえるだけとなった。10分ばかり経った時、親1羽が戻り巣箱の中を覗いた！雛もいない事を確認すると親は去った。子を思う親の心に熱きものを感じ取った一場面だ！苔が敷き詰められた空の巣箱！初入りから今日まで数えると6



5日間は、あつと言う間に過ぎ、空虚になった心の中にはシジュウカラの逞しさと子を思う優しき、責任感のようなものが残るばかりである。近くで犬が吠えている。カラスが鳴いている！襲われはしないか！巢立った10羽の雛たちは大丈夫なのか、その世話をする親たちの大変さが目に浮かぶ1日が、街の音と共に暮れて行った。

それから

雛たちが巢立ち10日程経った或る日、妻が

「巣箱どうするの、外すの・・・」

「いや、暫く様子を見たい、何かシジュウカラに動きが有るか観察して見たいので・・・」

「分った・・・もちの木の葉が茂って来たので剪定したいのやけど」と妻

「うーん、出来ればそのまままで置いときたいけど」間を置いて、

「いいか！あれから何の動きも無かつたし、ええわ、やって！」  
本来庭木の剪定などは私の仕事だけれど、腰を痛めてからは何もかも妻がしてくれているのである。

「じゃー、天気の良い日に剪定するわ」と妻

「悪いなあーっ、いつも申し訳ない！」

「毎度の事で、もう諦めているわ」と笑いながら妻

数日後、朝の早くからカチカチカチと庭バサミの音を妻がさしていた。  
「終わった！よう伸びて大変やったわ」と言い乍、妻が入って来た。  
見ると、もちの木はさっぱりとなり巣箱は目立つようになっていた。

この事が先で大事になるとは私も妻も知る由もなかった。その後も観察を続けたが巣箱には何の動きも変化も無かつた。

月が変わり6月中旬を過ぎ、庭の片隅に青き紫陽花が咲く或る朝、妻が

「来てるわ！シジュウカラが庭に！」と庭仕事を中断しそつと部屋に戻り小さな声で言った。即、カーテン越しに庭を見たが何も居なかつ

た。

「1羽？それとも2羽？」

「1羽だけやと思う」と妻

以後、巣箱だけで無く庭全体を観察するようになった。

6月25日9時前、1羽が苔を啜え巣箱に入った！2回目の子育てをする心算かと、胸の高鳴りを抑えシジュウカラの動きを注視した。間違いない2回目の子育て！所謂2番子の準備をし始めたのである。

「また始まったなあーまるで子供のような行動が」と妻

「2回目！2回目やで！2番子の子育てが始まるんや！」

1番子の時の初入りの喜びが再び蘇えったが、今度はどんな事を見せてくれるんやと、気持の昂りをぐーっと抑え冷静に観察しようと心に言い聞かせた。

6月27日6時40分、敷き詰められた苔の上に、未だ産座も形成されていない真ん中に、卵だ！卵だ！卵が1卵白く輝いている！ピーツピーツピーツと雄が啼き出した。と同時に白い獣毛を啜えて雌が中

に入つて来た！獸毛を卵の上に置くとすぐ外に出、雌雄とも去つた。昨夜は泊まり込んで居なかつたので、今の時季日の出は5時前だから早朝に産卵したのだ。この日は何回となく獸毛を運び込み卵が見えなくなつた頃、陽は西に傾き雌雄で帰つてくると、雌は泊まり込み、ピイッピイッの鳴き声と共に雄は去つた。

1番子の時と同様に1日に1卵産卵し、7月2日には6卵となり雌は巢箱に留まる時間が長くなつた。事前の情報として2番子は産卵数が少ないと聞いていたので、気温も高い事もあり抱卵時間は短いが抱卵期に入つたと思われる。

### 後悔先に立たず

しかしこの年、例年に無い酷暑となり、雌の抱卵は時間が短く蹲つては5分ばかりで立ちあがり又蹲る。相当暑いのであるう口を開けハアハアしながらの抱卵と、厳しい日が続いたが雨の日にも餌渡しに来

る優しい雄の頑張りもこれ有り、7月13日11時30分クマゼミの喧騒が治まった酷暑の中、第1子が！孵化！予想より2日早く孵化したのだ。

「母さん！産まれたでえ！2番子が生まれたでえ！」

「ほんとうー？あつ！ほんとに！」立ち上がっていた雌の傍に雛が弱々しく頭を振っていた。

「この暑い中、よう頑張ったなあ！」と妻

部屋の中は34・7℃だ巣箱の中はもつと暑い、いや熱いだろうと思う。13時50分第2子が孵化、16時55分第3子が孵化、翌14日5時55分には第4子が孵化、10時55分第5子が孵化と予想通りだ！ところが、遠くで何やら騒がしい。だんだんと近づいて来る。

ワッショイワッショイと子供の声、祭りだ！今日は夏祭りなんだ！近くまで来て、ワッショイワッショイと、中にいた雌は慌てて巣穴から顔を出し、何事かと外を覗いた時、ピリリイーピリリイーと笛の音に雌はびっくり！

顔を引つ込め中に戻った。

立ち上がったまま左右に頭を

捻り驚き、緊張した顔で巣箱の隙間から外を伺う。

神輿は一の輿から四の輿まで

続いた。その間、暑さも忘れ

不安顔で笛が鳴る度に身を屈め

何とか遣り過した。

遠ざかる神輿の子供たちの声に

安堵したかのように雌は雛の上に蹲りはしたが、暑いのかすぐ立ち上がった。暫くして雌は巣箱から外に飛び去った。

長い！10分！20分！産まれたての雛たちが居るのに何故戻らぬ、

まさか恐怖のあまり営巢の放棄？と思っていると帰って来た！

良かった！

「母さん！帰って来た！帰って来たわ！」



「良かったねえ、子供が居るものねえ、戻るのは当然やわ、夫を見捨てる事は有っても子供を見捨てる訳ないわ」と妻

「ん？・・・意味深やなあ」

「ハハハツハアーツ・・・」と妻

第6子が孵化しない？心配している内に日は暮れてしまった。翌、15日早朝から雛の世話に忙しい親であるが、やはり第6子が孵化しない？益々心配だ！そして、孵化した雛たちも1番子の時のような元気が無い？ジリジリと陽は照り気温は30℃を超えたが、巣箱の中はもっと熱いのでは、何故なら今年はもちの木の手定を早めにした為、枝葉の影がなく直接巣箱に陽が当たっている。後悔したが後の祭りだ。親が給餌に来て暑さの為か雛に元気が無い。糞は出してはいるが雛は熱さの為かぐったりしている。その時、親は巣穴に跳び付いた。外に出ることもなく巣穴に止まったまま、ジーツとしていた。暫くすると、両翼を半広げにしブルブルと小刻みに翼を震わし始めた？1分経っても止めない。あっ！雛に風を送っているんだ！親は翼を扇風機代

わりにしているのだ！親も暑く辛いのだろう2分もすると一旦止め、暫くすると、またブルブルと震わす扇風機を何回も繰り返し返した。

そして、昼を過ぎても第6子が・・・15時50分、やっと第6子が孵化した！まる2日以上遅れての孵化だ！先に孵化した第1子と比べると随分と身体が大きさが違う。この先、給餌、巣立ちなどで問題が起こらないか心配だ。などと思っていると親は、卵の殻を食わずに外に持ち出した。これで全羽孵化したと安堵はしたが心配の種は残ったままだ！

そもそも、一斉孵化そのものが不思議だ、1番子の時は9日掛かっていたの産卵、今回は6日掛かっていたの産卵、1卵目と6卵目とは6日の差が有るのに同一日に孵化すると言う一斉孵化は不思議で、自然とは良く出来たものである。などと思っている間に今日も1日暮れた。

ところが！泊まっている筈の親がいない！日中の気温が高かった為か親が泊まっていけないのだ！台風の接近で雨模様、雨が降れば気温が下がる。雛たち特に第6子が！心配だ。

## 心の戦い

7月16日曇っている。5時20分、親が戻って来た。雛たちは眠いのか1羽も口を開けず動きも無い。雛たち特に第6子は大丈夫か！気温は20℃前後か？昼に向かい気温は上がり給餌を受ける雛たちも元気が出て来たようだ。しかし、親は泊まらない。17日、台風は逸れたが雨だ！気温は昼でも26℃止まり、雛たちはチイチイと鳴き給餌を受けている。昨日より元気はある様だが、口を開け餌をせがんでいるのは5羽しか確認出来ない！第6子が気に掛かる。18日曇り、やはり早朝6時は21℃前後？と気温は低い。既に親は給餌に来てはいるが雛に活気が無い。あつ！蟻だ！数匹の蟻が産座の中を動いている！すぐに見えなくなつた。夜になつて観察カメラを点け様子を観ると、ああつ！多数の蟻が雛たちを集っている！雛たちは頭を振り、蟻を振り除けている！何度も頭を振り振り眠れない様子だ！

「どうすれば！どうすれば良い？」

「可哀想に！なんとか！なんとか出来ないの！」と妻

「自然に任せる以外・・・これも自然の・・・」

「そんな事言って！だから生き物と関わるの嫌なの！」と妻

「分った！」仕方なくもちの木の根元に殺虫剤を撒いてしまった。

暫くして蟻の姿は観えなくなつた。気が付くと日付けは19日に変わつていた。一応安堵はしたが、蟻が出たと言う事はもしかすると1羽死んでいるのか？急激な気温の変化に第6子が・・・何故、親は泊まらないのか？1番子の時は孵化後10日近くまで泊まっていたのに何故？恐らく気温が高い為と思われるが・・・なかなか眠れなく、うとうとする内に夜が明けた。

6時5分親はいつもと変わりなく給餌に来て糞を啜えて出て行った。良かった！胸を撫で下ろしたが、雛の確認は5羽しか出来ない。第6子が心配だ。そして、昨日から酷暑はぶり返し、雛たちは元気がなく日中はぐったりしている。

20日、自然摂理を乱し蟻退治した事で、気は重いが放置し見過ごすのも辛い。陽はジリジリと照る酷暑の中で子育てを続けるが給餌を受けるのは、4羽しか確認出来ない。

21日、今日も酷暑が続く親の給餌回数が1番子の時よりも少ない様に感じる。餌を啜えた親が来ても雛は3羽しか動かず口も開けず餌も食べない！親は戸惑いながら餌を啜えたまま外に出る事が続き1羽、2羽と動きが止まって行った。

22日、4時45分雛たちは動かなくなっていた。雨の降りしきる中、ひっそりと蕾が膨らみ雫は涙の如く、やがて赤く大きな口を開けて泣くばかりに睡蓮が1輪咲いた。

5時20分親が巣穴に止まったが中に入らず、チイチイと啼きながら餌を

啜えたまま去った。餌を啜え、中に入らない親の行動は夕刻まで続き、



夕暮れには何度もなんども餌を啜えては巢穴に止まり枝にもどる．．．を繰り返し身を切られる様に、雄のピーッピーッの泣き声と共に雌は巣箱から離れて去った。やがて夕張りが巣箱を包んだ。翌朝、雨も上がりクマゼミの喧騒の中、いつもの暑い夏があった。そして、今日もジリジリと夏の陽が巣箱だけを照らしていた。

## エピローグ

翌年もシジュウカラは営巣し、3月24日に初卵を産み4月3日に10卵となり大きなトラブルも無く、5月4日に無事1番子は10羽元気に巣立った。そして、5月16日に4卵を確認し、やはり2番子の子育てを始めた。5月20日9卵目を産み抱卵を始め、5月31日9時15分に第1子孵化し、6月2日16時10分、第9子と全卵孵化した。この年も暑さが酷かったが、前年の失敗を考え植木の剪定を行わなかったので枝葉が伸び、木陰は巣箱を守っている。

「よし！今年は2番子も巢立つぞ！」と元気の良い雛たちを見て気持ち  
ちが昂った。

6月4日孵化後5日目、親はピストン給餌におお忙しだ！9羽の雛  
たちも元気だ！

6月7日23時、雌は泊まり込んでいる。

「よし！今度はいけるぞ！」と安心して眠りに就いた。

6月8日、朝寝坊し7時30分観察カメラを観た。親がいない？餌  
採りにでも出ているのだろうか？2時間経っても給餌にこない？どうし  
た？口を開け雛たちが懸命に待っている！が親は帰って来ない！時間  
はどんどん過ぎるが親が！給餌が！

やがて陽は傾き夕張が巣箱を覆ったが、親は帰って来ない。

翌朝、雨だ！雛たちは口を開け必死に親を待ち続けた！が親は帰って  
来ない！1羽、2羽と口を開けなくなっ行って行った。この日も雨の降り  
しきる中、遂に日が暮れてしまった。

後日、シジュウカラと思われる羽毛が散らばり、頭だけの死骸が庭

に落ちていた。9・6パーセント、この数字は50年前の環境の良い森林に営巣したシジュウカラの産卵から孵化・巣立ちそして、翌年の夏までに生存した個体の生存率を、とある研究者の資料を参考におおまかな計算で算出した数字である。

街なかの巣箱を観察してシジュウカラの小さな世界、シジュウカラの優しく逞しい責任感のある、種の継承に見返りを求めず、損得を考えないひたすら子育て本能に、心を洗われる思いをしたのである。来年も続けるであろう子育て！命をかけて！

おわり

